

いただいたご意見・ご質問への回答

	意見	市コメント(所管課からのコメント含む)
①	市美術館の入館者数の数え方を工夫し、広報に活かすべき	既に企画展と所蔵作品展の入場者数を別々に数え、合算した数を入館者数として外部に発表している。それ以外の貸館事業の入場者数等のカウントについても、今後検討していきたい。
②	「ちば大道芸の日(旧:大道芸フェスティバル in ちば)」のように、予算減により休止にならぬような体制づくりが大切(参考:ちばYOSAKOI)	<p>ちばYOSAKOIや大道芸フェスティバル in ちばのように、地域活性化を目的として始めた事業は、およそ、5年を目途に地元へ根付かせ、NPOや商店街等が主体となって開催していくことを目指している。もともと協賛金が運営予算の殆どを占めているが、市が負担金を廃止すると、経済状況が厳しい昨今、継続していくことが困難となる。</p> <p>毎年3月第4日曜日に大々的に開催されていた大道芸フェスティバル in ちばは、平成22年度、市からの負担金が廃止となったため、イベントは一旦中止となったが、今年3月第4日曜日に実施できるよう、NPOと中央地区商店街協議会が奮闘中。なお、3月以外、毎月開催されるちば大道芸の日は、負担金が廃止されてもNPO等が主体となって継続実施済み。</p> <p>ちばYOSAKOIについては、平成21年度は休止であったが、学生とNPOで実行委員会を立ち上げ、企業の協賛金を募り、今年、11月28日(日)に、「ホカホカよさこい」と銘打って実施した。県内外から36チームが参加し、中央公園、京成千葉駅前、センシティブガーデンの3会場とも盛り上がりを見せた。</p> <p>地元から継続したいという声が上がるといことは、当初の目的どおり、地域に根付いたと評価できる。</p>
③	アーティストバンク登録者に発表の機会を与えてほしい	市文化振興財団では、アーティストバンク登録システムの充実を図るとともに、アーティストバンク登録者を活用した事業を検討している。来年度以降、企画・実施を予定している。市としても、アーティストバンクの広報・活用を推進していく。

	意見	市コメント(所管課からのコメント含む)
④	市民が主体となって地域情報に関するホームページを立ち上げる場合、市からの支援は得られるか	<p>市ホームページを市民にとって使いやすいサイトにするため、所管課である広報課が、ホームページの制作運用に経験のある民間ボランティアを募り、「ホームページリニューアル提案コンテスト」を実施した。平成22年12月から23年2月までの期間、構想から技術的な仕様の作成までを平成23年度のリニューアルに向けて協働してもらう。</p> <p>市民が主体となって立ち上げる際の市の支援としては、ホームページにリンクを貼ることは可能。必要とする情報の提供について、文化振興課が窓口となって所管課等に交渉していくことはできる。</p>
⑤	文化基金について、紹介を効果的にすべき(仕組み、使い道)。また、特典を付けるなどして広報に活かすべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化基金への協力を呼びかけるチラシを作成し、公共施設、文化施設等に配置する準備をすすめている。 ・市所管施設で開催されるイベント等で、場内アナウンスをし、文化に興味をもっている方々へ直接協力を呼びかける。 ・一定額以上の寄付者に、特典を付ける方向で検討している。
⑥	情報格差を作らないために、『あでるは』のような紙媒体も、もう少し残してほしい	『あでるは』は市文化振興財団の自主事業として継続している。4月当初はA3、2つ折りだったが、11月からしあがりA4 3つ巻折りに拡充し、内容の充実を図るとともに、イベント情報等の掲載及び商業広告による収入を確保し、さらに充実を図れるよう努力している。
⑦	振興会議委員に芸術家を加えてほしい	若手芸術家等を加えた方がいいというご意見もいただいております、平成23年度から委員を追加する方向で検討していきたい。(議題3として事務局説明)